

2021 年度の活動計画

<総務>

- ・ 毎月 1 回幹事会を開催し、議事録を会員に配信する。
- ・ 幹事会の協力を得て、ニューズレターの年 8 回程度の発行を目指す。「自論公論」「イベントの案内・報告」「旅の千夜一夜物語」などの定例の記事の他、会員相互の情報交換や近況報告を兼ねて、より多くの会員に投稿を呼びかける。
- ・ SRID サロンを支援するとともに、コロナウィルスの終息を前提に、ライブ演奏会など新趣向のイベントを開催して、会員間の親睦を図る。
- ・ 懇談会申込書での入会案内などにより、会員の勧誘に力を入れる。(山下)

<広報>

- ・ 定期的に HP を更新し、年に 2 回 SRID ジャーナルを発行する。
- ・ Facebook など各種メディアにより SRID 活動の全体的プロモーションを行う。
- ・ 必要に応じてパンフレット・案内書の印刷、幹事の名刺作成などを行う。(山岡)

<懇談会>

- ・ SRID 非会員も参加できる公開イベント。国際開発のベテランのみならず、国際開発に興味のある学生や、すでに国際開発分野で働いていてさらなるステップアップを目指す若い世代などの幅広い参加者を対象に、国際開発に関する時宜を得たテーマについてその分野のエキスパートに講演を頂く。そして、講演後に十分な質疑応答の時間を設けることで講演者も含めた全参加者が共に考える機会とする。
- ・ 懇談会のテーマと回数は登壇可能な講演者に合わせてフレキシブルに対応するが、国連関連と世界銀行などの国際開発金融機関関連を各 1 回、その他国際開発関連を 2 回、合計 4 回以上の開催を目指す。
- ・ コロナ禍の為オンライン開催を続けるので、ネットワーク懇親会は開催できないが、懇談会を通じて、キャリア開発事業や SRID ジャーナルを含めた SRID の活動に対する非会員参加者の認知度を高め、キャリア開発塾カウンセリング申込者増や SRID ジャーナル読者登録者増、さらに SRID 新規会員増に繋げる。
- ・ 懇談会の成功は魅力ある登壇者探しがキーであり、会員の皆様には、登壇の自薦や登壇可能な知り合いの方の紹介をお願いしたい。(小林)

<フォーラム>

会員相互の親睦と意見交換の場として発展させることを目的として、2021 年度もフォーラムを実施していきたい。2020 年度は Zoom によるフォーラム開催が実現し、より広く会員の参加を得ることが出来た。今年度は状況が許せば対面での開催を検討したい。フォーラムの開催時期については、コロナウィルスへの対応状況を踏まえつつ、慎重に検討する。テーマとして、例えばアフリカへの協力の在り方、開かれたアジア太平洋構想、気候変動対策、防災・リスク管理など、会員の関心を踏まえて設定していきたい。(神田)

<SRID ジャーナル>

- ・ 2021 年度は SRID ジャーナル担当の新幹事に湊直信氏が選出され、新編集委員長として新たな展開を図る。以下、浅沼信爾、高橋一生、仲浩史、中島千秋、福田幸正、藤村建夫、山岡和純の 8 名で企画・編集を担当する。7 月に第 21 号、1 月に第 22 号を発行する予定である。特集は編集委員会で決定するが、国際開発の最前線のトピックを選びたい。外部配信者は 550 名に達しているので、当面はこの数を維持する。
- ・ 2021 年度は新型コロナウイルスの例にみられるような、グローバルなインパクトを与える課題と、その結果として生じる国際社会の変容を分析しながら、国際開発分野の重要課題を取り上げていきたい。ターゲットグループとしては、国際開発を学習している大学院生、研究者、実務者などとする。読者からの投稿は 2019 年度に 1 件あったが、今後はトピックに見合う読者を選んで投稿を呼びかけていきたい。(湊)

<キャリア開発事業>

- ・ 2019 年度に改編された事業内容に沿って、SRID キャリア開発塾の活動として以下の 4 つの活動を実施する。とりわけ、プロフェッショナル研修コースと個人カウンセリングに事業の重点を置いて、他の事業との連携を強化する。
 - ① 出張講座
 - ② プロフェッショナル能力向上研修
 - ③ キャリア開発カウンセリング
 - ④ 国際協力活動を行う学生団体を含めた他団体との連携
- ・ 国際開発プロフェッショナルコースは国際開発ジャーナル社と協力し、6 月 19、20 日の土日の 2 日間で行う。2021 年度は土曜に世銀コース、日曜に国連機関コースを実施するが、SRID 会員の専門知識とスキルを考慮して、翌年度以降、徐々に研修コースを改訂または拡充していく。土日ともに午前と午後に分けて 90 分の講義・実習を 4 コマずつ、計 8 コマ実施する。講師に謝金を支払うことを考慮して研修を有料とし、事業が独立採算で維持できるよう努力する。
- ・ 国際機関での働き方などの、開発分野で働く女性のためのオンライン塾(研修)の実施を企画中である。今後具体案を作成し、実施する。
- ・ 講師リストを拡充し、積極的に事業に協力できる会員を登録する。SRID ジャーナル、SRID ニュースレターへの寄稿、SRID 懇談会との連携(講師による講演など)を図る。
- ・ キャリア開発カウンセリングについては懇談会とリンクさせ、参加者からのカウンセリング要望をフォローする形式を定着させていく。
- ・ 過去の助成団体を含む SRID の活動に関心を持つ学生団体を選んで、活動に参加してもらおう。また、学生団体等が必要としている研修やセミナー等に講師を派遣して協力する。2021 年度はこれまでキャリア開発事業の活動助成金を支給した UYIC、MIS、UNION などの学生団体との連携を強化する。
- ・ SRID 懇談会や SRID ジャーナルの他、外部の国連フォーラムや SNS 等を通じて、キャリア開発事業の対外的な認知度を一層高めるよう努力する。
- ・ 2021 年度は小久保和代運営委員長以下、神田道男、小林文彦、佐藤桂子、藤村建夫、

和気邦夫、森田宏子の7名が運営委員を担当する。原則として隔月に運営委員会を開催し、実施の進捗状況を確認して幹事会に報告する。また必要に応じて協議し、問題解決を行っていく。(小久保)

<他団体との連携推進>

- ・ 2020年度に連携イベントを開催した RITA-Congo を始め、他の学会や専門家のネットワーク、組織とも、共通の関心を持てる活動については情報共有を積極的に行い、連携を模索していきたい。(不破)

<サロン>

- ・ 2020年度から始めた「SRID サロン」ではオンラインの開催を含め、話題を写真、絵画、トレッキング、釣りなど趣味と教養の分野に広げて、他の関連する若者との合同サロンも検討する。
- ・ 2013年度より年に2,3回のペースで開催した「サロン・エカポール」では、国際開発のフロンティアで活躍されているプロフェッショナルを自宅に招き、夕食とワインを共にしながら、開発問題のホット 이슈を中心に、最前線の新鮮な話題を提供してきた。
- ・ 対面での会合が困難になっている状況を考慮し、「サロン・エカポール」を統合した新しい「SRID サロン」として、場合によってはオンラインによる話題提供も考えたい。(藤村)